

会社説明会（17年5月31日） 発言原稿（要約）

< MTFG・UFJ 両グループの合算計数と経営統合について >

1 ページ：04 年度実績について

両グループ合算ベースの営業純益は約 1 兆 7,000 億円となり、2 月に発表した見込みを上回る結果となりました。また、経費率、当期利益、ROE の何れも予想の範囲内で着地することができました。

2 ページ：05 年度合算ベース業績予想

UFJ の上期見込みを含んだ合算ベースの通期業績予想は、統合に伴う一時的費用の要因もあり、連結当期利益で 5,400 億円となります。一時的要因がなくなる 06 年度は、連結当期利益は 8,000 億円を超える水準まで増加する見込みです。

3 ページ：両グループ合算計数 (1) 収益

4 ページ：両グループ合算計数 (2) 預金・貸出

両グループ合算ベースの収益力、預金・貸出ボリュームは、国内の他グループを圧倒することになります。また、外銀との比較では、業務純益は、04 年度実績で既に一部グループと並び、08 年度財務目標では、トップグループにかなり近いレベルということができます。

5 ページ：両グループ合算計数 (3)

両グループ合算の不良債権比率は、両グループが計画通り不良債権処理を進めた結果、3.33%と予定通りの水準で着地しました。公的資金や繰延税金資産を除いた Tier 1 の金額と対 Tier 1 資本に占める割合は、合算後でも他行比トップの状況です。

6 ページ：経営統合の進捗状況

7 ページ：合併契約の概要（持株会社）

経営統合に向けた準備は、予定通り順調に進んでおります。先月 20 日には、持株会社・各業態子会社で合併契約を締結し、併せて、ガバナンス、組織、役員人事等について発表しました。

8 ページ：新グループのガバナンス態勢

ガバナンス態勢の基本的な考え方は、監査役制度を採用しつつ、委員会等設置会社の持つ優れた機能も吸収する枠組みとしたことです。「3つの社外の視点」で経営の透明性を強化し、株主への説明責任を果たす態勢を強化します。

9 ページ：当面の重要課題

当面の重要課題は、第一に、10月1日の経営統合を計画通り円滑に実現すること。第二に、新グループの収益目標必達に向け、スタートダッシュをかけられる態勢を作ること。第三に、コストシナジの早期実現に全力を尽くすこと、以上3点です。

10 ページ：新グループ収益目標

新グループの営業純益目標については、04 年度実績の好調を維持し、更に顧客部門の収益増強に努めていくことで、金利上昇効果に余り頼らず目標が達成できるよう頑張ってもらいます。

11 ページ：コストシナジーの実現

統合効果の発現も、システム本格統合の完了を待たずに 07 年度に約 50% が実現する計画であり、08 年度の目標達成に向けて着実に成果を挙げていく所存です。

12 ページ：スタートダッシュに向けて

両グループでは既に、統合直後からのスタートダッシュに繋がる様々な施策を積極的に展開しています。経営統合後も引き続き、両グループのお客様への統合メリットの早期還元と、株主の皆様への統合効果の前倒し実現を図ってもらいます。

米国証券取引委員会 (SEC) への文書提出

株式会社三菱東京フィナンシャル・グループ(「MTFG」)は、株式会社 UFJ ホールディングス(「UFJ」)と MTFG の経営統合に伴い、Form F-4 による登録届出書を米国証券取引委員会(「SEC」: U.S. Securities and Exchange Commission) に提出いたしました。Form F-4 には、目論見書 (prospectus) 及びその他の文書が含まれています。UFJ は、当該経営統合を承認するための投票が行われる予定である株主総会の実施日前に、Form F-4 の一部として提出された目論見書をその米国株主各位に対して発送する予定です。Form F-4 及び目論見書には、MTFG に関する情報、UFJ に関する情報、本経営統合、及びその他の関連情報などの重要な情報が含まれています。UFJ の米国株主におかれましては、UFJ 株主総会において本経営統合について決定なさる前に、本経営統合に関連して SEC に対して提出された Form F-4、目論見書、及びその他の文書を注意してお読みになるようお願いいたします。Form F-4、目論見書、及びその他、本経営統合に関連して SEC に提出される全ての文書は、提出後に SEC のホームページ (www.sec.gov) にて無料で公開されます。なお、株主の皆様には、本経営統合に関連して SEC に提出される目論見書及びその他全ての文書を無料にて配布させていただきます。配布のお申し込みは、お電話・お手紙・電子メールにて承ります。

MTFG担当者: Mr. Hirotosugu Hayashi 〒100-6326 東京都千代田区丸の内2丁目4番1号 丸の内ビル26F 電話：81-3-3240-9066 メール：Hirotosugu_Hayashi@mtfg.co.jp	UFJ担当者: Mr. Shiro Ikushima 〒100-8114 東京都千代田区大手町1丁目1番1号 電話：81-3-3212-5458 メール：shiro_ikushima@ufj.co.jp
---	---

さらに、MTFG は、Form F-4、目論見書、及びその他、本経営統合に関連して SEC に提出する全ての文書に追加して、年次報告書 (アニュアル・レポート) 及びその他の情報を SEC に提出することが義務づけられます。これらの SEC に提出される報告書及びその他の情報等については、SEC 内に設置されている公開閲覧室 (public reference rooms 住所：450 Fifth Street, N.W., Washington, D.C. 20549) 又はニューヨーク州ニューヨーク市・イリノイ州シカゴ市の公開閲覧室において閲覧・コピーが可能です。公開閲覧室に関する詳しい情報については、SEC までお電話にてお問い合わせ下さるようお願いいたします。(電話番号：1-800-SEC-0330) なお、SEC に提出された文書は、SEC のホームページ (www.sec.gov) 又は民間の文書検索サービスを通して入手可能です。

将来の見通しに関する記述

本書には、MTFG、UFJ、及び本経営統合完了後の事業についての将来の見通しに関する情報及び記述が含まれています。将来の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述を意味します。こうした記述には財政状態に関する見通し及び予測 (financial projections and estimates) 及びその前提、将来の事業・製品・サービス等に関する計画・目的・期待に関する記述、並びに将来のパフォーマンスに関する記述が含まれます。将来の見通しに関する記述は、一般に、期待する ("expect,") 予想する ("anticipates,") 考える ("believes")、意図する ("intends,") 予測する ("estimates") 又はその他これに類似した表現により特定されます。MTFG 及び UFJ の経営陣は、そうした将来の見通しに関する記述に反映されている期待は合理的なものであると考えますが、将来の見通しに関する情報及び記述は、様々なリスクや不確定要素により影響を受ける事にご注意下さい。その多くは予測困難かつ MTFG 及び UFJ の統御を越えたものである為、将来の見通しに関する記述の中で言及・示唆・予測されている情報及び記述は、実際の結果や状態と大きく異なる可能性があります。かかるリスクと不確定要素には、MTFG が SEC に提出した Form F-4 登録届出書に含まれる目論見書の "Cautionary Statement Concerning Forward-Looking Statements" (将来の見通しに関する記述についての注意事項) 及び "Risk Factors" (リスク要因) の項に列挙されたもの等を含めて、MTFG 及び UFJ が SEC 又はその他の現地当局へ公式に提出した文書中で検討又は指摘されている事項が含まれます。MTFG 及び UFJ は、適用法により義務づけられている場合を除き、将来の見通しに関するいかなる情報及び記述もそれを更新又は改定する義務を一切負わないものとします。